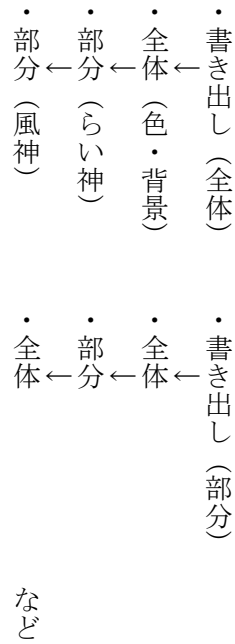


めあて

構成や表現を工夫して、解説文を書こう。

◎構成の例



◎書き出しの例

※教科書144ページの〈書き出しの例〉を拡大コピーして貼ります。

※教師のモデル文（『風神雷神図』の解説文）を拡大印刷して提示するか、一部を書き抜いて板書します。
（六時目で使用したものと
同じもの）

【見る場所や見る方法を表す言葉】

- ・と見ると、
- ・に目を向けると、
- ・として見てみると
- ・だけに注目すると
- ・を見てみよう。
- ・としてごらん。
- ・もつと見てもみよう。

【7・8／9時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む⑥
本時のねらい 構成や表現を工夫して、解説文を書かせる。

【7時目】

- 1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。
 - 学習計画表を提示し、これまでの読みを生かして解説文を書くことを確認する。
 - 「全校のみんなに絵を紹介する」という目的意識と相手意識を再確認する。

2 前時のワークシートを見ながら、解説文の構成を考える。

- 部分的に見て感じたことと全体を見て感じたことのバランスを考えて、書く順序を決めさせる。
- 教科書144ページと145ページの〈書きだしの例〉〈記述例〉を板書で示し、参考にさせる。

3 表現の工夫をしながら解説文の下書きをする。

- 教科書の例文や拡大したワークシートを使って筆者の工夫を想起させる。
- ※ 『風神雷神図』の解説文のモデル文も活用ください。
- 三百〜四百字程度で書くことを確認させる。
- ※ 書き終えたら読み返して、自分が工夫したところには、あらかじめ赤線を引かせておくと、後で工夫が足りないところを自覚させやすく、推敲に生かすことができます。

【8時目】

1 下書きの解説文を推敲する。

- ペアで交換して読み合い、誤字脱字や分かりにくいところをチェックさせる。
- 赤線を引いた部分（工夫点）が少ない場合は、学習したことを参考に書き加えをさせる。

評価 構成や表現を工夫して、解説文を書いている。 （書ウ）
文章表現に着目し、語句と語句の関係を捉えている。 （言イ（オ））

2 推敲した下書きを基に、清書をする。

- 校内に掲示することを意識して清書させる。

3 本時の振り返りをして次時の学習を確認する。

- 次時は、グループで解説文を読み合い、交流することを知らせる。